西粟倉村大茅スキー場エリア拠点整備

基本構想

目次

01.　はじめに …… p3

02.　本事業の価値・求める成果 …… p5

03.　拠点の全体像 …… p7

04.　各エリアについて

a.　スケートエリア …… p11

b.　センターエリア …… p13

c.　キャンプエリア …… p19

d.　フォレストエリア …… p23

e.　その他エリア …… p24

05.　今後のスケジュール …… p25

はじめに

西粟倉村のあらたな成長の起点づくり

当拠点整備事業の目的は、西粟倉村の新しい起点となる「飛び地をつくる」ことにある。この十年来、西粟倉村は林業再生やローカルベンチャーをテーマとした循環型地域創造の成功事例として、関心ある多くの公共団体や企業などに認知される地域となった。今や年間1,000人を超える視察者が来村している。一部の有識者等への認知獲得が進む一方、一般市民や旅行者に向けた認知は不足している。大茅スキー場エリアの再活用は、今まで西粟倉村には関心がなかった人々や企業との新しい接点を構築するものである。今までの西粟倉村にはない（違和感のある）飛び地をつくり、ここをあらたな起点として新規的な事業開発や地域循環との接続を構成したい。

単純な飛び地ではない、背景にある連続性

飛び地をつくるとは言え、単純にギャップのあるテーマを持ち込むことを良しとはしない。その背景には、今まで西粟倉村が大切にしてきた考え方との連続性が必要だと考える。それは「森を生きる」という価値観や、循環型の地域創造に対する考え方である。この社会的な価値提案にこそ、西粟倉村が世界に対して果たすべき役割があると考える。

力強く魅力的なテーマ、伝搬していく面白さ

現状、近隣地域から来訪する観光客は年間5万人ほど。一時的な立ち寄りや黄金泉などが中心で広がりのあるものとは言い難い。近隣地域にとどまらない、新しい顧客層を開発が必要である。しかしながら、岡山と鳥取の県境、山陽と山陰の往来の中間地点にある西粟倉村へ、あらたな来訪を促すということは容易ではない。西粟倉への来訪を促すにはユニークで力強い魅力と、伝搬していく面白さが必要と考える。ありふれたアトラクション施設をつくったところで話題にはならないと認識している。
大茅スキー場の再活用を考える上で、中心においたのは「スケートパーク」つまりスケートボードを楽しむ施設である。東京オリンピック以来、スケートボードに関心を持つ市民は増加。競技としてはもちろん、仲間どうしで称え合う精神性や、トリック習得への挑戦心や勇気が認知されるにつれ、教育的関心によりファミリー層への関心も高まっている。これは意識ある消費やエシカル行動の関心層とも相関する。

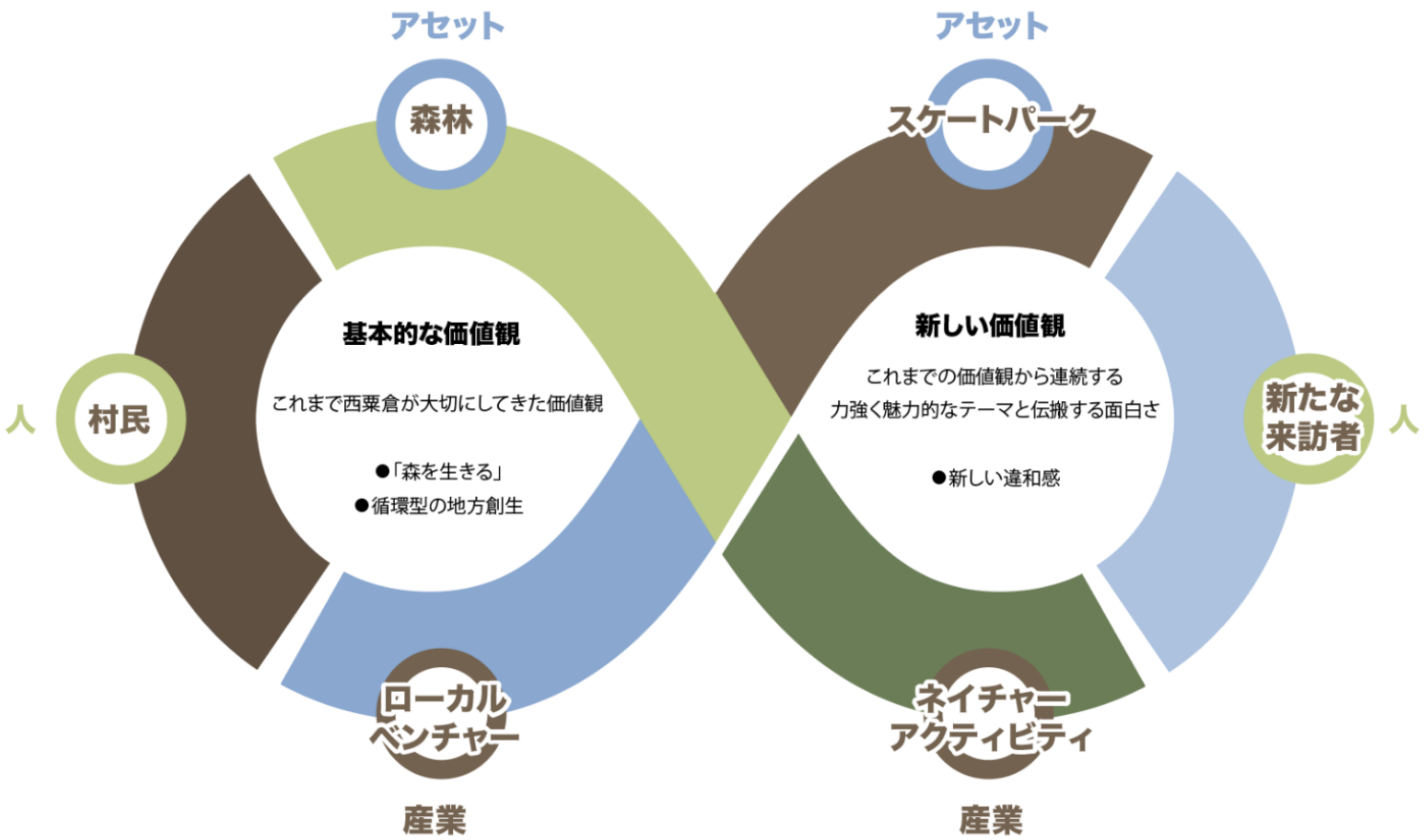
はじめに

ネイチャーアクティビティとしてのスケートボード

このような背景の中、国内のスケートパークは増加、2021年5月現在418施設に至る*（うち岡山県は5施設、鳥取県は3施設）。ストリートカルチャーを背景に都市部にスケートパークが増える一方、欧米ではネイチャーアクティビティとして、新しいスタイルの施設が開発されている。競技コースとは異なり、自然の地形や起伏を活用した攻略性にとんだコースであり、その多くは家族や友人も楽しめる滞在型パークである。これに倣い、西粟倉の森林を体感できるスケートパークとして国内でも先行的な事例をつくりたい。

*日本スケートパーク協会調べ

本事業の価値 - 循環型地域創造の拡大モデル



1：ターゲット

スケートボード等の経験者や関心層、サウナ愛好者をターゲットに西粟倉の価値観に共感を生み出し、時間の経過と共に顧客層を拡大。

2：コンテンツ

ネイチャーアクティビティとしてのスケートボード。競技コースとは異なり、自然の地形や起伏を活用した攻略性にとんだコースや地域資源や事業者と連携したアクティビティを用意。

当拠点の３つの目玉

森林のスケートコース	森林のキャンプ	森林のサウナ

当拠点のメインコンテンツとして、
ゲレンデ跡の斜面に新設するスケートコース「スネークラン」、
宿泊キャビンを設置し、より快適に西粟倉の森林で過ごせるキャンプエリア、
水着1枚で西粟倉の森林を全身で感じられるバレルサウナを設置します。

拠点整備の考慮ポイント

西粟倉の魅力発信

西粟倉の魅力に触れ
村内を楽しむ
起点となる場所に

+デジタル

デジタルの仕組みを導入し
訪問者や運営スタッフの
利便性を確保する

地元の関わりしろ

村内事業者や西粟倉の
ステークホルダーが
積極的に関われる場所に

自然資本との結節点

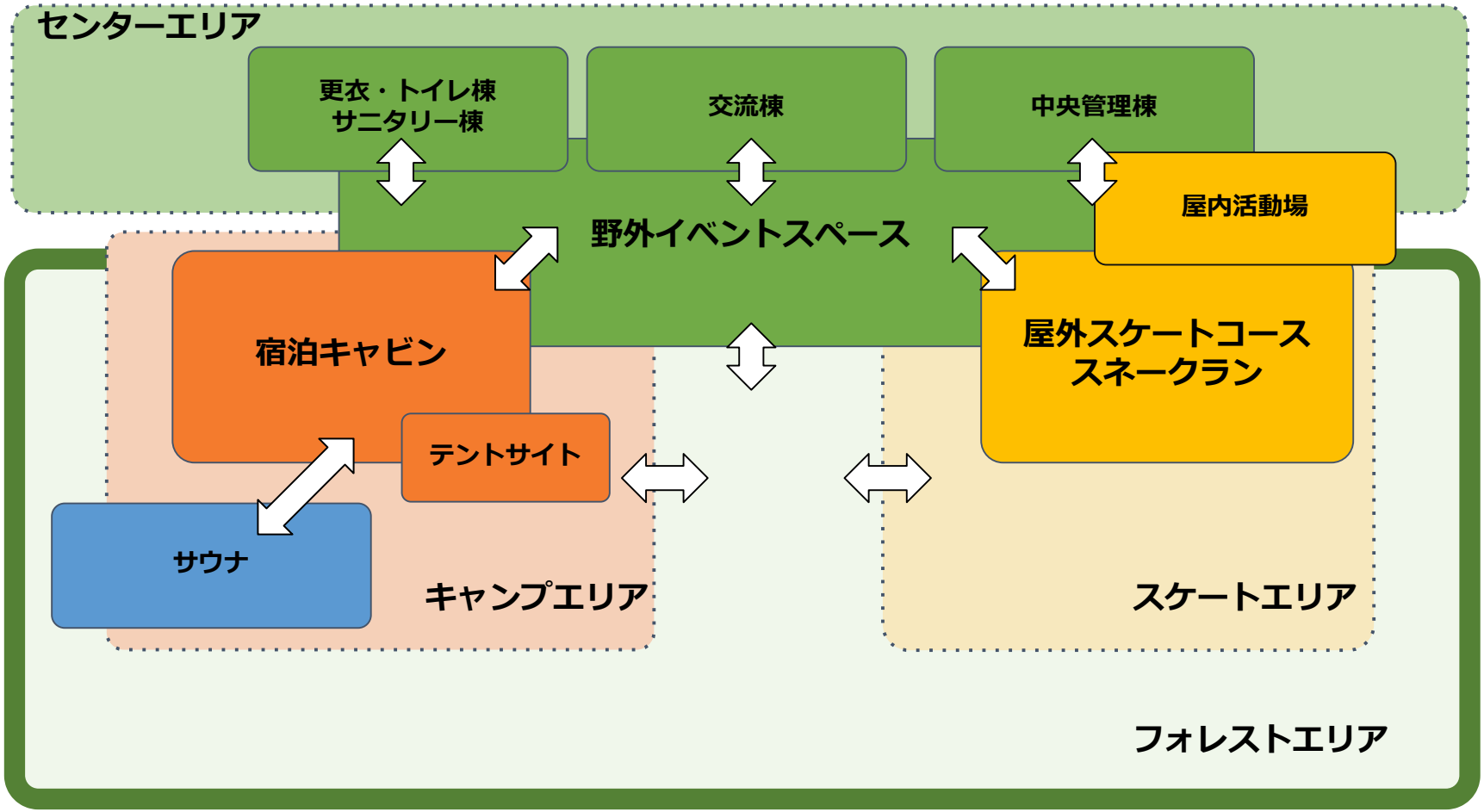
若杉天然林などの
西粟倉の自然資本と
ふれあい理解を深める
起点となる場所に

インフルエンス

利用者自ら
ここでの滞在・体験を
発信したくなる場所に

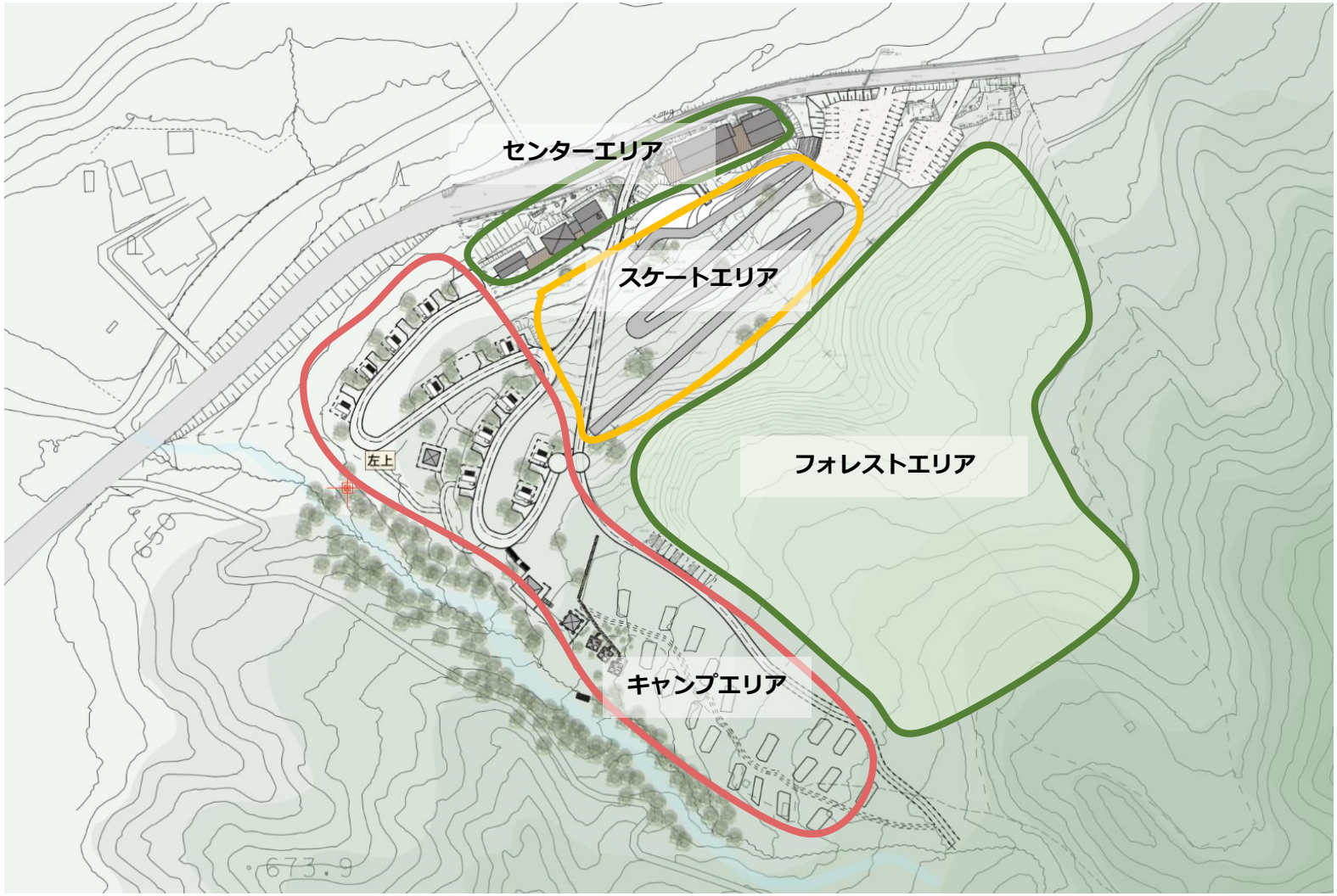
拠点全体像　– 構成要素の整理 -

◎　**森林を中心に、新しい価値を生み出す自然体験施設を目指します。**



拠点全体像　– ゾーニング -

◎　**斜面を生かし、周辺環境との調和が取れた敷地利用計画を考えていきます。**



スケートエリア　当スケートボード施設の特異性について

◎　スキーゲレンデの斜面を生かした自然体験としてのスケートパーク

アーバンスポーツであるスケートボードの施設は都市部の街中や郊外に設置されるのが一般的です。一方で当拠点のスネークランは、西粟倉の地域資源のひとつである旧大茅スキー場のゲレンデ跡地において、その起伏を活かして作られる希少性の高いスケートボード施設です。
「スネークラン」形式の施設は国内には存在せず、類似する「パンプトラック」形式の施設もわずかしか存在しないため、コース設計の面で見ても希少性の高いスケート施設となります。
さらに「スネークラン」形式としては世界最長コースとなるため、スケートボード好きの外国人観光客にとっても旅の目的地となる可能性があり、中長期の滞在が期待できます。
また、当施設ではスケートボードを中心としながらも、BMX・キックボード・インラインスケート・ランニングバイク等、幅広い種目のライダーを受け入れる想定です。

当施設は、西粟倉の地域資源を活かした個性的で希少性の高い観光コンテンツとして認知を拡げ、多種多様なライダーを受け入れることで、集客力・収益性の向上を図ります。

ゲレンデを活かした
スケートパーク

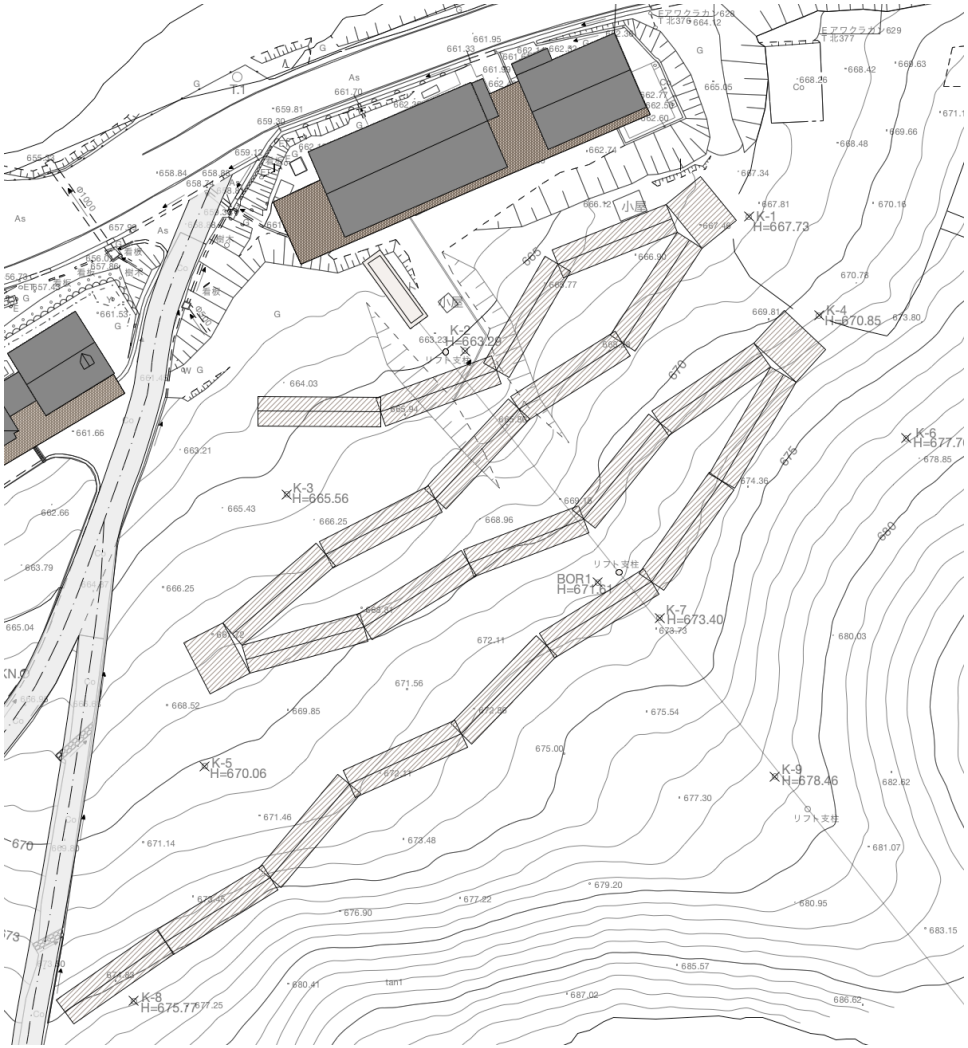
国内唯一の
スネークラン

世界最長の
スネークラン

スケートエリア

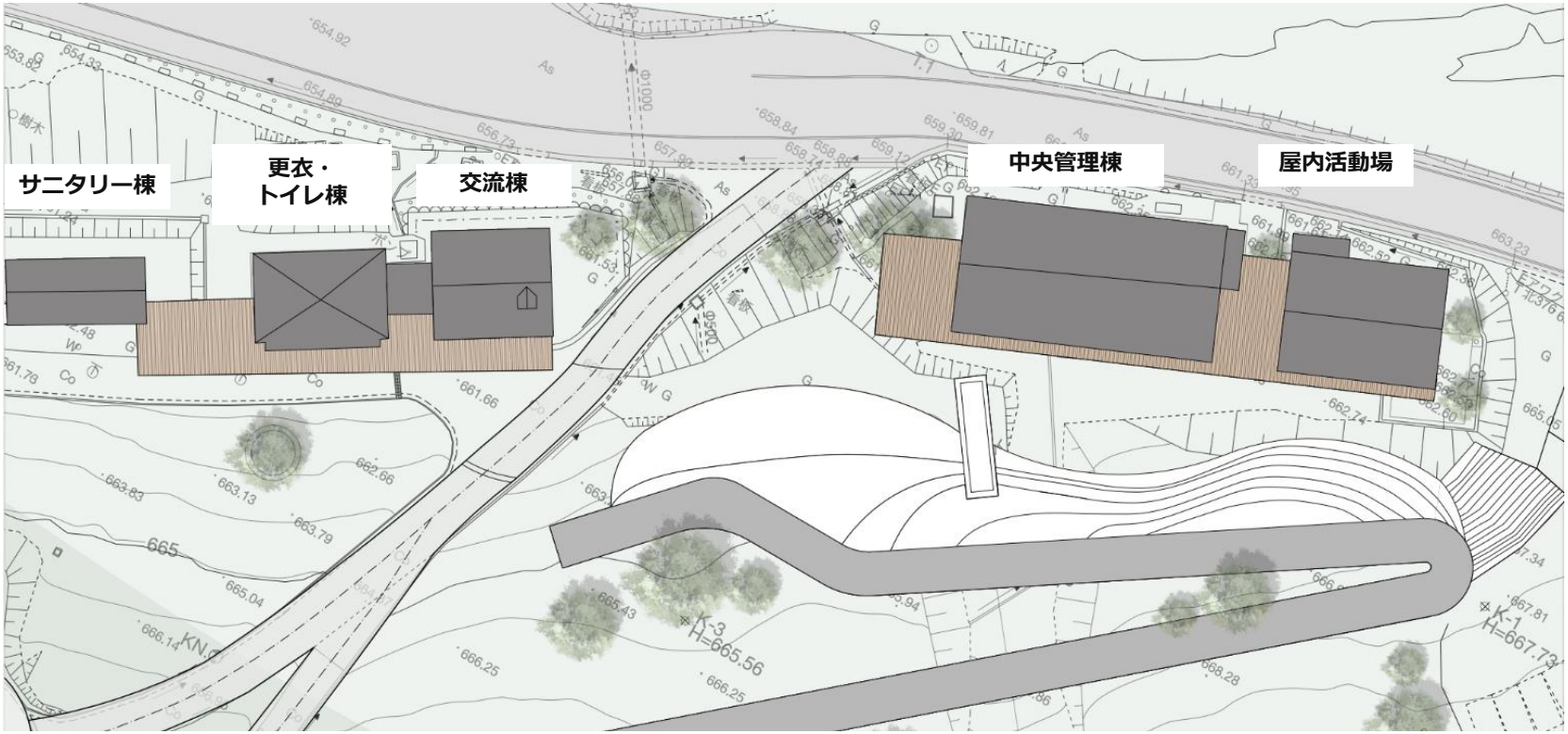
スネークランの計画（勾配の計画）

◎　**スキー場の斜面を使ったコースレイアウトを計画します。**



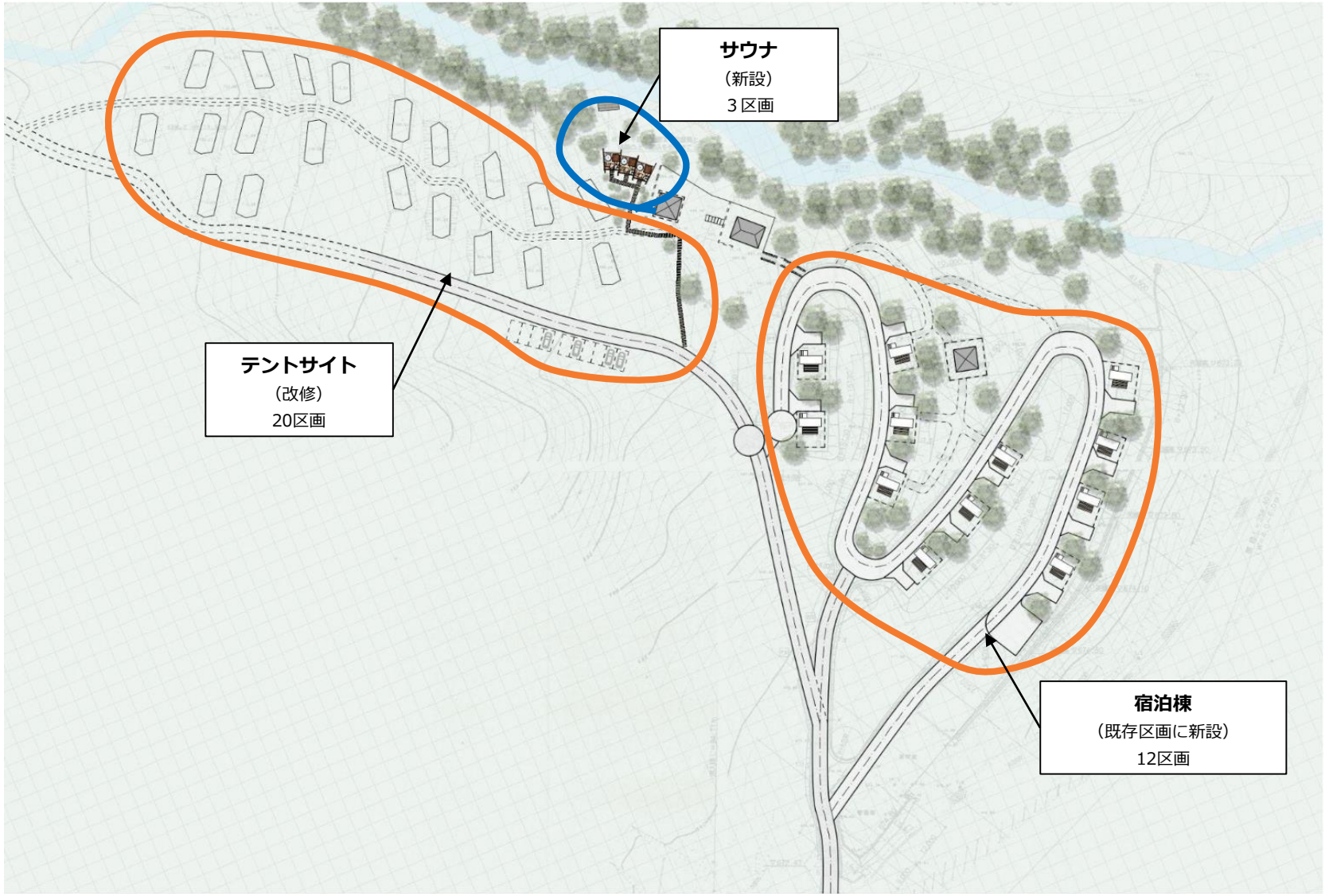
センターエリア　センターエリア＋イベント広場

◎　**既存建物を生かしながら、受付やカフェなど施設の中心的な役割を果たす場所として整備します。**



■ 中 央 管 理 棟 … 施設全体の受付機能とカフェを備える（事務所・休憩スペース・カフェ）
■ 屋 内 活 動 場 … 室内練習または多目的に活動する場所（屋内活動場・倉庫）
■ 交　　流　　棟 … 地域の人が、さまざまな目的で利用できる交流の場（研修用スペース・会議室・貸厨房）
■ 更衣・トイレ棟 … 更衣・トイレ棟はロッカーやシャワーを整備（更衣室をシャワー付更衣室に改修）
■ サニタリー棟 … 多目的シャワー、多目的トイレ、ランドリースペース（現状機能のままリプレイス）

キャンプエリア　キャンプエリア全体



キャンプエリア　宿泊棟

キャンプエリア　テントサイト

◎　**これまでのテントサイトを再整備します。**

フォレストエリア　フォレストエリアの考え方

◎　**ゲレンデ上部は森林をいかし、森林と触れ合う場所とします。**

森林に戻す、森林を作る

運営事業者や利用者と共に、広葉樹の植林を行い、針葉樹と広葉樹の混交を進めることで、生物多様性に富んだ森林の再生を目指す。

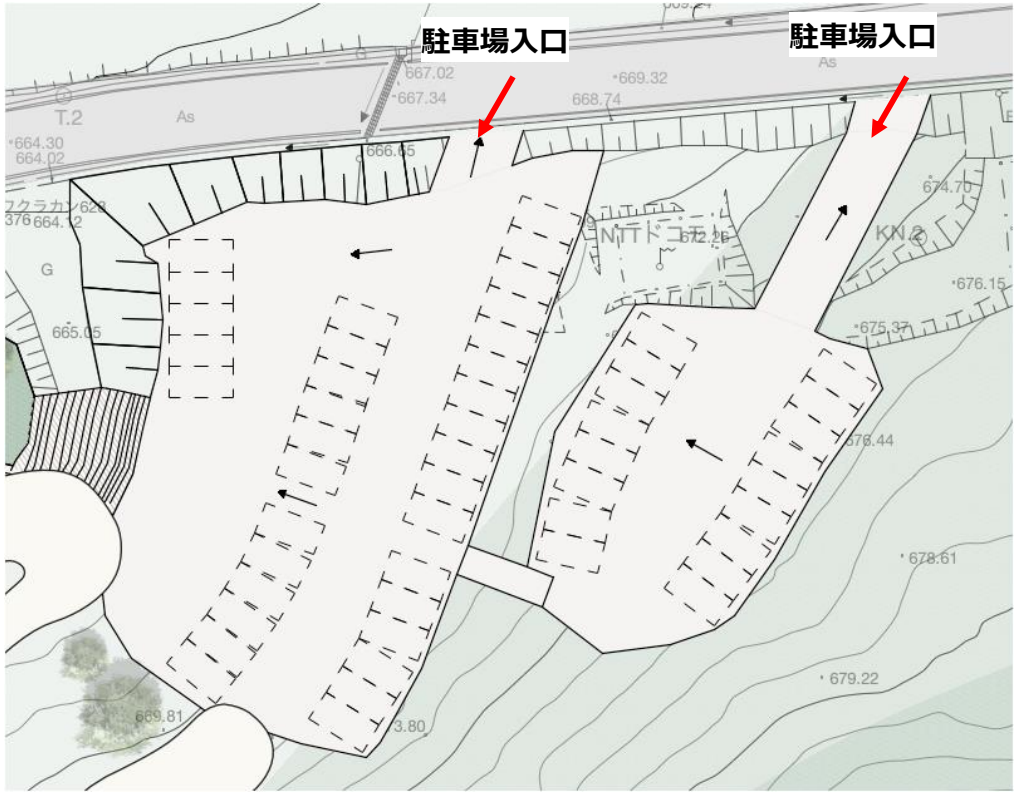
森林に触れる、森林で過ごす

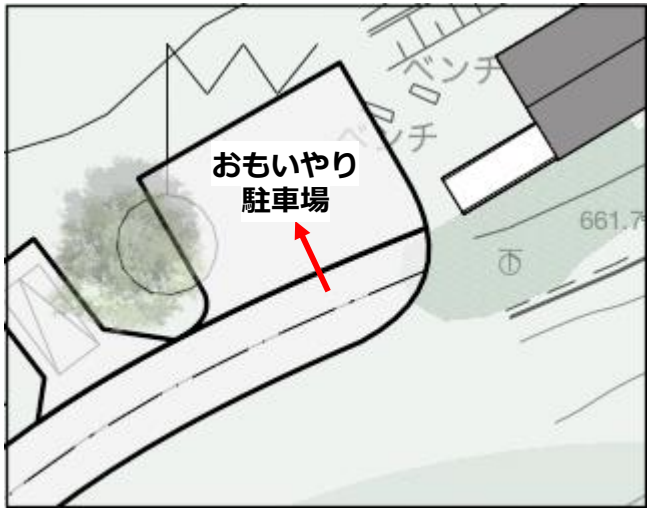
観光客や地元住民が、森林や、森林に集まる多様な生物に触れられ、思い思いの時間を過ごせる場所とする

その他　駐車場エリア

◎　**利用者のための駐車場を整備します。**

一般客用駐車場	46台
キャビンエリア	12台
テントサイト	10台
おもいやり駐車場	2台
スタッフ用駐車場	4台
業者用駐車場	1台
駐車場　合計台数	75台





想定するマーケット

- **これらの都市から約2時間以内で来村可能。**
- **スケートボード、ネイチャーアクティビティ、アウトドア等に関心のある層にリーチ。**